

玉川活性化へ 地域資源活用

「鈍米」のプランディングに力を入れた
農業班「わらシシ」も制作した

今治市玉川地域の活性化に取り組む今治東中等教育学校の3年生が5日、同市玉川町大野の市玉川文化交流館で地域資源を生かした活動の成果を発表した。同館で13日まで成果を展示し、8日にはマルシェも開催。同地域の鈍川産米などで作ったスイーツや当地グルメ「玉川ダムカレー」を提供し、市民らにアピールする。

同校がNPO法人玉川サイコー（同市）と実施するプロジェクトの一環。約110人が昨年6月から農業▽福祉▽アート▽観光の4班に分かれ、少子高齢化などの課題に向き合ってきた。5日は徳永繁樹市長や福祉班の地域食堂を使つたパウンドケーキ

農業班は鈍川産米を「鈍米（どんまい）」として売り出すプランティングに力を入れたディングに力を入れたと報告した。その米粉を使ったパウンドケー

今治東中教校 成果発表 「鈍米」PRやマルシェ企画



キやドーナツなどを地元業者と開発し、松山市内の大学祭などで販売。米粉のスイーツは8日のマルシェでも取り扱う予定で、藤沢蒼斗さん（15）は「ほどよい甘さでとてもおいしくうれしかった」とPRした。

住民の手ほどきを受けて、稻わらの「わらシシ」作りを体験した。とも紹介した。地域食堂でダムカレーを提供した福祉班の住の画家仙波さくらさんは、「これまでの視点で玉川の風景を捉えた油絵18点を会場に展示した。観

感を込めた。「今後は地元の小売業者と連携を発着点とするサイクルマップを作成。生徒と買い物する企画も考えている」と見据えた。

アート班は今治市在籍の画家仙波さくらさんらの協力を受け、そ

8日のマルシェは同館の敷地で午前11時から午後2時に実施する。

（西尾寛昭）